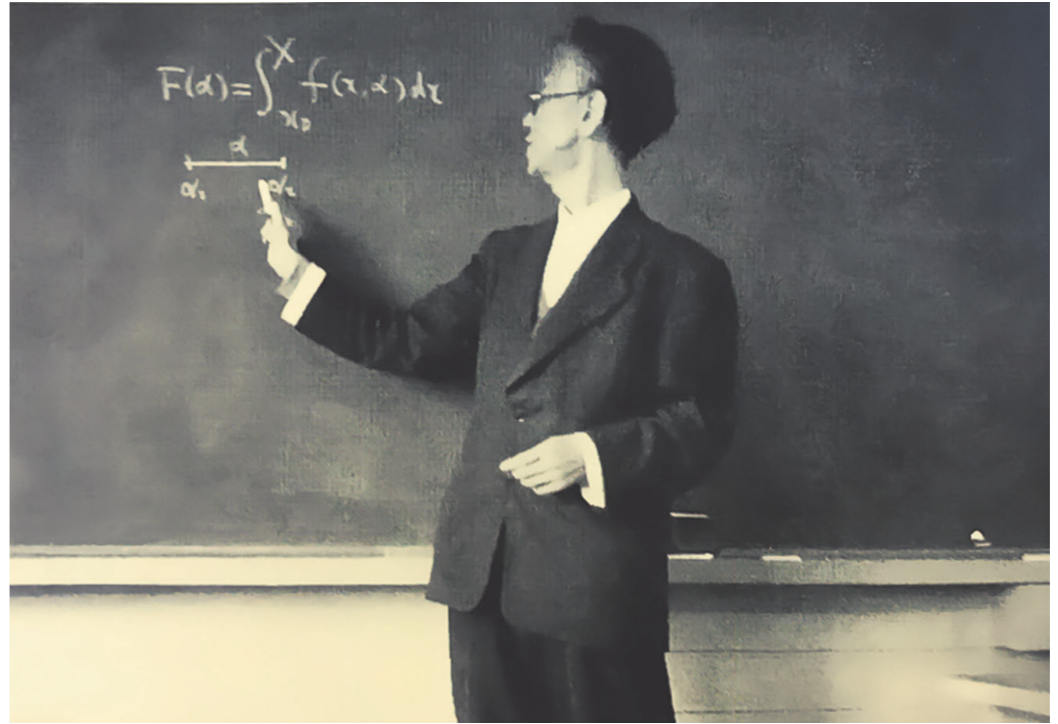


世界が認めた—天才



提供：奈良女子大学

発見と功績

多変数解析函数論の分野には「クザンの問題」「近似の問題」「ハルトウクス逆問題」という三大難問がありました。

この難問は、世界中の誰もが手に負えず未解決のまま残されていたものでした。しかし、博士はたった一人ですべての難問を解いてしまい、世界の名だたる数学者たちが「OKA」の名前を研究チーム名だと勘違いする程でした。三大難問を解決する過程で見つけた「上空移行の原理」や「不定域イデアルの理論」などの革新的な発見は、世界中の数学者から高く評価され、現在の数学においても非常に大きな影響を与えています。そして、1960年に第20回文化勲章を受章、その翌年には橋本市初の名誉市民となりました。



▲名誉市民表彰時の岡潔博士

こころの世界

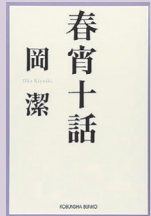
博士の研究は、次第に数学の世界から、こころの世界へと移っていきます。

戦後、日本人としての心が、失われつつあると感じた博士は、1962年、最後の論文を発表後、日本の将来を案じるかのように、講演や執筆などの活動を意欲的に行います。数ある著書の中で、最初の著書「春宵十話」は名著として今なお多くの人々に読み継がれています。

情緒の世界

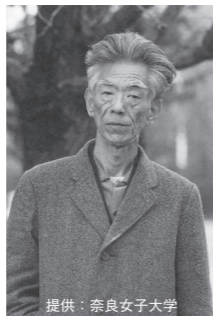
岡潔博士の著書、「春宵十話」から、有名な一節をご紹介します。

「スマレはただ
スミレのように
咲けばよい」



▲春宵十話

数学をやって何になるのか。と問われた際の答えとして、有名な一節です。「意味を求めるのではなく、自分らしく生きればそれでいい」という教訓だと解説されますが、読者の皆さんはどう解釈されますか。自分なりに考えてみてもいいかもしれません。



▶京都大学で生徒が撮影

提供：奈良女子大学

岡潔と数学

博士が数学に興味を持ったのは、粉河中学校時代のことでした。在学中に出会った「クリフォードの定理」に深い神秘感を覚え、約2カ月間図面を書き続けるほど、数学にのめりこんでいったそうです。1922年、京都帝国大学（現・京都大学）理学部物理学科に入学。試験で出題された難問にとりかかった博士は、試験時間のほとんどを使って、その一問を解くことに成功。解けた喜びで試験中にも関わらず、「できた」と叫び、残りの時間を公園のベンチで寝そべっていたそうです。この時、数学に自信を持ち数学科に転科しました。

卒業後は、同大学の助教授に就任し、3年間フランスに留学しました。留学中に今まで見た中で一番難しそうだからという理由で、研究テーマを「多変数解析函数論」の分野に決め、その後の人生をかけてこの難問に立ち向かいました。

岡潔の人生

昭和53年	昭和4年	大正3年	明治34年
1978	1929	1914	1901
1973	1932	1907	1904
1971	1935	1907	1904
1962	1932	1907	1904
1961	1932	1907	1904
1960	1932	1907	1904
1949	1932	1907	1904
1946	1932	1907	1904
1940	1932	1907	1904
1938	1932	1907	1904

- 1978 享年76歳で生涯に幕をおろす
- 1973 勲一等瑞宝章受章（現・瑞宝大綬章）
- 1971 「春雨の曲」を始筆。納得いくまで何度も原稿を書き続けるも未完のままとなる
- 1962 毎日新聞にて「春宵十話」を連載
- 1961 講演活動、執筆活動に力を入れ始める
- 1960 橋本市初の名誉市民となる
- 1949 第20回文化勲章受章
- 1946 「不定域イデアルの理論」が完成（第三の発見）
- 1940 「関数の第二種融合法」を発見（第二の発見）
- 1938 大学を休職し、紀見村に帰郷。本格的に研究を開始
- 1935 研究全体の核心である「上空移行の原理」を発見（第一の発見）
- 1932 広島文理科大学助教授に就任・帰国
- 1929 3年間のフランス留学へ
- 1922 生涯の研究テーマを「多変数解析函数論」に決める
- 1922 京都帝国大学理学部物理学科（現・京都大学）に入学。のちに数学科に転科。
- 1914 粉河中学校3年生の時に「クリフォードの定理」に出会う
- 1907 柱本尋常小学校に入学
- 1907 粉河中学校に入学
- 1904 和歌山県伊都郡紀見村（現・橋本市柱本）へ移住
- 1901 大阪府大阪市で誕生